

# 令和5年愛媛県感染症発生動向調査事業

## 細菌科 ウイルス科 疫学情報科

愛媛県感染症発生動向調査事業要綱(平成13年1月1日施行)に基づき、一類から五類感染症及び新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、疑似症の116疾患(全数把握対象91疾患、定点把握対象25疾患)について発生動向調査を実施している。このうち定点把握対象疾患については、86患者定点から患者情報を収集し、19病原体定点から病原体情報を収集している。

当所は「愛媛県基幹地方感染症情報センター」として、病原体を含めた県内全域の感染症に関する情報の収集・分析を行い、その結果は「愛媛県感染症情報」及び「愛媛県感染症情報センターホームページ\*」等により、迅速に還元・公開している。

(\*<https://www.pref.ehime.jp/site/kanjyo/>)

### 1 患者発生状況

#### (1) 全数把握対象疾患

〔感染地域、感染経路については、確定あるいは推定として届出票に記載されたものを示す。〕

#### ア 一類感染症(7疾患)

患者報告はなかった。

#### イ 二類感染症(7疾患)

1疾患、結核112人の届出があり、病型は患者87人、無症状病原体保有者25人であった。性別は男性49人、女性63人で、年齢は10歳未満2人、10歳代2人、20歳代10人、30歳代5人、40歳代4人、50歳代7人、60歳代11人、70歳代25人、80歳代31人、90歳以上15人であった。なお詳細については、「結核登録者情報システム」のデータを基に、別項に掲載した((3)結核 参照)。

#### ウ 三類感染症(5疾患)

2疾患の届出があった。細菌性赤痢は1事例1人(患者)の届出があった(表1)。20歳代男性で、感染地域は国内、感染経路は不明であった。

腸管出血性大腸菌感染症は13事例16人の届出があり(表2)、病型は患者7人、無症状病原体保有者9人であった。性別は男性3人、女性13人で、年齢は10歳未満2人、10歳代1人、20歳代4人、40歳代4人、50歳

代5人であった。血清型はO157が7人、O26、O132が各2人、O15、O91、O103、O156、O181が各1人であった。感染地域は県内13人、不明3人で、感染経路は経口感染4人、接触感染2人、動物・蚊・昆虫等からの感染1人、不明9人であった。溶血性尿毒症候群(HUS)発症等の重症例の報告は無かった。

#### エ 四類感染症(44疾患)

9疾患、49人の届出があった(表3)。

E型肝炎は50歳代男性1人の届出があった。感染地域は県内で、感染経路は経口感染であった。

A型肝炎は20歳代男性1人の届出があった。感染地域は県内で、感染経路は性的接触であった。

Q熱は20歳代女性1人の届出があった。感染地域は県内で、感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

重症熱性血小板減少症候群は3人の届出があり、性別は男性1人、女性2人で、年齢は70歳代1人、80歳代2人であった。感染地域は県内2人、県外1人で、感染経路はすべて動物・蚊・昆虫等からの感染であり、3人中1人にマダニ類による刺し口が確認された。

つつが虫病は70歳代女性1人の届出があった。感染地域は県内で、感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であり、マダニ類による刺し口が確認された。

日本紅斑熱は20人の届出があり、性別は男性9人、女性11人で、年齢は10歳代1人、50歳代1人、60歳代4人、70歳代9人、80歳代5人であった。感染地域はすべて県内で、感染経路はいずれも動物・蚊・昆虫等からの感染であり、20人中9人にマダニ類による刺し口が確認された。

マラリアは50歳代男性1人の届出があり、病型は卵形であった。感染地域は国外で、感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

レジオネラ症は20人の届出があり、病型は肺炎型19人、ポンティアック熱型1人であった。性別は男性19人、女性1人で、年齢は50歳代3人、60歳代8人、70歳代2人、80歳代7人であった。感染地域は県内16人、不明4人で、感染経路は水系感染3人、不明17人であった。

レプトスピラ症は50歳代女性1人の届出があった。感染地域は県内で、感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

表1 細菌性赤痢届出事例

事例番号	診断日	届出保健所	感染地域	感染経路	菌型
1	11月27日	西条	国内	不明	フレキシネル

表 2 腸管出血性大腸菌感染症届出事例

事例番号	診断日	届出保健所	血清型	ベロ毒素	患者・感染者数
1	4月3日	今治	O26	VT1	1
	4月8日	今治	O26	VT1	1
2	4月25日	松山市	O181	VT2	1
3	4月27日	松山市	O156	VT1	1
4	6月30日	松山市	O157	VT2	1
	7月7日	八幡浜	O157	VT2	1
5	7月26日	松山市	O132	VT2	1
	7月31日	中予	O132	VT2	1
6	8月1日	宇和島	O157	VT1・VT2	1
7	8月26日	西条	O157	VT2	1
8	8月29日	松山市	O157	VT2	1
9	8月30日	西条	O157	VT1・VT2	1
10	9月25日	松山市	O157	VT2	1
11	10月27日	松山市	O103	VT1・VT2	1
12	11月20日	八幡浜	O91	VT1	1
13	11月27日	松山市	O15	VT1	1
合 計					16

表 3 四類感染症事例

疾患名	届出数
E型肝炎	1
A型肝炎	1
Q熱	1
重症熱性血小板減少症候群	3
つつが虫病	1
日本紅斑熱	20
マラリア	1
レジオネラ症	20
レプトスピラ症	1
合計	49

オ 五類感染症(24 疾患)

15 疾患, 244 人の届出があった(表 4).

アメーバ赤痢は 3 人の届出があり, 病型はすべて腸管アメーバ症であった. 性別は男性 2 人, 女性 1 人で, 年齢は 40 歳代 1 人, 50 歳代 1 人, 60 歳代 1 人であった. 感染地域はすべて県内で, 感染経路は性的接触 1 人, その他 1 人, 不明 1 人であった.

ウイルス肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く)は 4 人の届出があり, 病型はサイトメガロウイルス 3 人, B 型が 1 人であった. 性別は男性 2 人, 女性 2 人で, 年齢は 10 歳代 1 人, 20 歳代 2 人, 30 歳代 1 人であった. 感染地域はすべて県内で, 感染経路は性的接触 1 人, 不明 3 人であった.

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症は 28 人の届出があった. 性別は男性 19 人, 女性 9 人で, 年齢は 20 歳代 1 人, 50 歳代 2 人, 60 歳代 2 人, 70 歳代 12 人, 80 歳代 8 人, 90 歳以上 3 人であった. 感染地域は県内 22 人, 国内(都道府県不明)2 人, 不明 4 人で, 感染経路は

以前からの保菌 13 人, 医療器具関連感染 3 人, 手術部位感染 1 人, その他 2 人, 不明 9 人であった。

急性弛緩性麻痺は 10 歳未満男性 1 人の届出があった。感染地域は県内で, 感染経路は不明であった。

急性脳炎は 60 歳代男性 1 人の届出があった。感染地域は県内で, 感染経路は不明であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 11 人の届出があった。性別は男性 8 人, 女性 3 人で, 年齢は 40 歳代 1 人, 50 歳代 2 人, 60 歳代 3 人, 70 歳代 3 人, 80 歳代 1 人, 90 歳以上 1 人であった。感染地域は県内 9 人, 不明 2 人で, 感染経路は創傷感染 4 人, その他 1 人, 不明 6 人であった。

後天性免疫不全症候群は 3 人の届出があり, 病型は無症候性キャリア 2 人, その他 1 人であった。性別はすべて男性で, 年齢は 20 歳代 1 人(無症候性キャリア), 30 歳代 2 人(無症候性キャリア, その他各 1 人)であった。感染地域は国外 1 人, 不明 2 人で, 感染経路は同性間性的接触 1 人, 不明 2 人であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は 4 人の届出があり, 性別は男性 2 人, 女性 2 人で, 年齢は 10 歳未満 1 人, 60 歳代 1 人, 70 歳代 1 人, 80 歳代 1 人であった。感染地域はすべて県内で, 感染経路は飛沫・飛沫核感染 1 人, 不明 3 人であった。

侵襲性肺炎球菌感染症は 8 人の届出があった。性別は男性 5 人, 女性 3 人で, 年齢は 10 歳未満 1 人, 10 歳代 1 人, 70 歳代 1 人, 80 歳代 4 人, 90 歳以上 1 人であった。感染地域は県内 7 人, 国内(都道府県不明)1 人で, 感染経路は飛沫・飛沫核感染 5 人, 不明 3 人であった。

水痘(入院例)は 5 人の届出があり, 病型は臨床診断例 3 人, 検査診断例 2 人であった。性別は男性 1 人, 女性 4 人で, 年齢は 10 歳未満 1 人, 30 歳代 1 人, 50 歳代 1 人, 70 歳代 1 人, 90 歳以上 1 人であった。感染地域はいずれも県内で, 感染経路は院内感染 3 人, 接触感染 1 人, 不明 1 人であった。

梅毒は 142 人の届出があり, 病型は早期顕症 I 期 73 人, 早期顕症 II 期 44 人, 無症候 25 人であった。性別は男性 100 人, 女性 42 人で, 男性の年齢は 20 歳代 8 人, 30 歳代 25 人, 40 歳代 37 人, 50 歳代 16 人, 60 歳代 10 人, 70 歳代 4 人で, 女性の年齢は 10 歳代 2 人, 20 歳代 14 人, 30 歳代 8 人, 40 歳代 7 人, 50 歳代 7 人, 60 歳代 1 人, 70 歳代 2 人, 80 歳代 1 人であった。感染地域は県内 97 人, 県外 14 人, 国内(都道府県不明)6 人, 不明 25 人で, 感染経路は性的接触 121 人, 不明 21 人であった。

播種性クリプトコックス症は 4 人の届出があった。性別

は男性 1 人, 女性 3 人で, 年齢は 60 歳代 1 人, 70 歳代 1 人, 80 歳代 2 人であった。感染地域はすべて県内で, 感染原因はいずれも免疫不全であった。

破傷風は 2 人の届出があった。性別は男性 1 人, 女性 1 人で, 年齢は 50 歳代 1 人, 70 歳代 1 人であった。感染地域はすべて県内で, 感染経路はその他 1 人, 不明 1 人であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 90 歳以上女性 2 人の届出があった。感染地域はすべて県内で, 感染経路はいずれも不明であった。

百日咳は 26 人の届出があった。性別は男性 10 人, 女性 16 人で, 年齢は 10 歳未満 10 人, 10 歳代 9 人, 20 歳代 2 人, 30 歳代 3 人, 40 歳代 2 人であった。感染地域は県内 21 人, 国内(都道府県不明)3 人, 不明 2 人で, 感染経路は幼稚園・学校で流行が 3 人, 家庭内感染が 2 人, 不明が 22 人であった(重複あり)。

表4 五類感染症事例

疾患名	届出数
アメーバ赤痢	3
ウイルス性肝炎	4
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	28
急性弛緩性麻痺	1
急性脳炎	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	11
後天性免疫不全症候群	3
侵襲性インフルエンザ菌感染症	4
侵襲性肺炎球菌感染症	8
水痘(入院例)	5
梅毒	142
播種性クリプトコックス症	4
破傷風	2
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2
百日咳	26
合計	244

カ 新型インフルエンザ等感染症(4 疾患)

「新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(HER-SYS)」における集計内容を示す。

1 疾患, 新型コロナウイルス感染症 14254 人の届出があった(2023 年 5 月 8 日より定点把握対象疾患に移行)。性別は男性 5744 人, 女性 8490 人, その他 1 人, 不明 19 人であった。年齢は 10 歳未満 83 人, 10 歳代 34 人, 20 歳代 208 人, 30 歳代 324 人, 40 歳代 240 人, 50 歳代 404 人, 60 歳代 2765 人, 70 歳代 4589 人, 80 歳代 3419 人, 90 歳以上 2188 人であった。診断類型は患者 13812 人, 無症状病原体保有者 328 人, 疑似症患者 100 人, 感染症死亡者の死体 12 人, 感染症死亡疑いの死体 2 人であった。

## (2) 定点把握対象疾患

### ア 週報対象疾患(18 疾患)

定点からの週別患者報告数を表 5 に示した。

インフルエンザの報告数は 30850 人(定点当たり 506.4 人)で, 過去 5 年の平均(以下, 例年とする)の 3.1 倍であった。1 月上旬から増加したものの, 明確なピークを形成することなく低水準で推移していたが, 9 月上旬から大きく増加し始め, 10 月にピークに達した。1999 年の感染症法施行以降 2 番目に大きな発生規模であり, 四国中央保健所, 西条保健所で報告数が多かった。

新型コロナウイルス感染症(2023 年 5 月 8 日より全数把握対象疾患から移行)の報告数は 17392 人(定点当たり 285.3 人)であった。6 月上旬から増加し, 7 月下旬と 9 月上旬の二峰性のピークを形成した。

RSウイルス感染症の報告数は 2651 人(定点当たり 71.7 人)で例年の 1.3 倍であった。例年よりも早い 4 月上旬から増加し, 6 月上旬にピークに達した。2003 年の報告開始以降で 2 番目に大きな発生規模であった。

咽頭結膜熱の報告数は 2375 人(定点当たり 64.3 人)で例年の 5.2 倍であった。5 月中旬から増加した後, 収束することなく推移していたが, 8 月下旬から急激に増加し, 12 月下旬にピークに達した。1999 年以降で最も大きな発生規模であった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 3415 人(定点当たり 92.4 人)で例年の 1.1 倍であった。9 月上旬から増加し, 12 月上旬に一旦ピークを形成し, 高水準を維持したまま翌年に続いた。

感染性胃腸炎の報告数は 13237 人(定点当たり 358.0 人)で例年の 1.1 倍であった。1 月上旬から増加し, 2 月中旬にピークに達した。

水痘の報告数は 146 人(定点当たり 3.9 人)で例年の

0.4 倍であった。年間を通して報告数が少なく, 1999 年以降で 2 番目に小さい発生規模となった。

手足口病の報告数は 813 人(定点当たり 22.0 人)で例年の 0.4 倍であった。9 月上旬から増加し, 目立ったピークがないまま 12 月下旬まで発生が続いた。

伝染性紅斑の報告数は 11 人(定点当たり 0.3 人)で例年の 0.03 倍であった。年間を通して報告数が少なく, 1999 年以降で最も小さい発生規模となった。

突発性発しんの報告数は 756 人(定点当たり 20.5 人)で例年の 0.7 倍であった。例年と同様に年間を通じて大きな変動を示さず, 1999 年以降で最も小さい発生規模となった。

ヘルパンギーナの報告数は 2450 人(定点当たり 66.2 人)で例年の 4.0 倍であった。5 月中旬から増加し, 6 月中旬にピークに達した。

流行性耳下腺炎の報告数は 95 人(定点当たり 2.6 人)で例年の 0.4 倍であった。年間を通して報告数が少なく, 1999 年以降で 2 番目に小さい発生規模となった。

急性出血性結膜炎の報告数は 2 人(定点当たり 0.3 人)で例年の 1.0 倍であった。

流行性角結膜炎の報告数は 533 人(定点当たり 66.6 人)で例年の 0.9 倍であった。5 月中旬から増加しはじめ, 目立ったピークがないまま 12 月以降も増加傾向が続いた。

感染性胃腸炎(ロタウイルス胃腸炎)の報告数は 3 人(定点あたり 0.5 人)で例年の 0.2 倍であった。

細菌性髄膜炎の報告数は 1 人(定点当たり 0.2 人)で例年の 0.4 倍であった。病原体は不明であった。

無菌性髄膜炎の報告数は 4 人(定点当たり 0.7 人)で例年の 1.4 倍であった。病原体は不明であった。

マイコプラズマ肺炎の報告数は 6 人(定点当たり 1.0 人)で例年の 0.1 倍であった。

クラミジア肺炎の報告はなかった。

### イ 月報対象疾患(7 疾患)

定点からの月別患者報告数を表 6 に示した。

性器クラミジア感染症の報告数は 304 人(定点当たり 27.6 人)で例年の 2.8 倍であった。性別は男性 107 人, 女性 197 人であった。

性器ヘルペスウイルス感染症の報告数は 125 人(定点当たり 11.4 人)で例年の 1.4 倍であった。性別は男性 106 人, 女性 19 人であった。

尖圭コンジローマの報告数は 94 人(定点当たり 8.4 人)で例年の 2.2 倍であった。性別は男性 84 人, 女性 10 人であった。

淋菌感染症の報告数は 102 人(定点当たり 9.3 人)で例

年の 1.8 倍であった。性別は男性 69 人, 女性 33 人であった。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の報告数は 108

人(定点当たり 18.0 人)で例年の 1.1 倍であった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症, 薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はなかった。

表5 定点把握五類感染症 週別患者報告数

疾患 \ 週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
インフルエンザ	451	625	544	544	575	368	387	457	430	565	416	261	234	166	130	77	52	63	115	223	224	222	219	232	151	143	264	
(定点当たり)	7.4	10.2	8.9	8.9	9.4	6.0	6.3	7.5	7.0	9.3	6.8	4.3	3.9	2.7	2.1	1.3	0.9	1.0	1.9	3.7	3.7	3.6	3.6	3.8	2.5	2.3	4.3	
新型コロナウイルス感染症																			88	159	147	180	227	237	252	373	671	
(定点当たり)																		1.4	2.6	2.4	3.0	3.7	3.9	4.1	6.1	11.0		
RSウイルス感染症	6	7	6	6	18	21	26	14	17	9	10	7	24	9	23	41	39	61	50	50	81	111	178	235	207	241	219	
(定点当たり)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.5	0.6	0.7	0.4	0.5	0.2	0.3	0.2	0.7	0.2	0.6	1.1	1.1	1.6	1.4	1.4	2.2	3.0	4.8	6.4	5.6	6.5	5.9	
咽頭結膜熱	1	7	2	2	1	3	2	4	7	5	4	7	13	4	4	13	12	9	24	28	29	25	22	25	28	20	18	
(定点当たり)	0.0	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	0.1	0.1	0.4	0.3	0.2	0.6	0.8	0.8	0.7	0.6	0.7	0.8	0.5	0.5	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	13	19	13	12	22	27	17	6	28	16	14	14	9	13	53	73	15	40	24	32	35	29	48	33	53	38	
(定点当たり)	0.6	0.4	0.5	0.4	0.3	0.6	0.7	0.5	0.2	0.8	0.4	0.4	0.4	0.2	0.4	1.4	2.0	0.4	1.1	0.6	0.9	0.9	0.8	1.3	0.9	1.4	1.0	
感染性胃腸炎	161	291	403	350	442	387	649	513	510	444	384	314	208	210	258	282	242	151	275	327	293	343	304	264	257	225	210	
(定点当たり)	4.4	7.9	10.9	9.5	11.9	10.5	17.5	13.9	13.8	12.0	10.4	8.5	5.8	5.7	7.0	7.6	6.5	4.1	7.4	8.8	7.9	9.3	8.2	7.1	6.9	6.1	5.7	
水痘	1	2		4	1	1	1	2	1	4		4	1		1	2	8	1	3	2	7		5	4	2	5	1	
(定点当たり)	0.0	0.1		0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1		0.1	0.0		0.0	0.1	0.2	0.0	0.1	0.1	0.2		0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	
手足口病	10	8	4	1	1			1			1	1	1	2	3	1		1	1	2	6	9	7	9	13	8	10	
(定点当たり)	0.3	0.2	0.1	0.0	0.0			0.0			0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0		0.0	0.0	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.4	0.2	0.3	
伝染性紅斑								1				1															1	
(定点当たり)								0.0				0.0															0.0	
突発性発疹	12	12	17	15	13	17	19	11	9	20	21	14	19	10	16	18	22	22	20	20	15	25	11	13	10	13	18	
(定点当たり)	0.3	0.3	0.5	0.4	0.4	0.5	0.5	0.3	0.2	0.5	0.6	0.4	0.5	0.3	0.4	0.5	0.6	0.6	0.5	0.5	0.4	0.7	0.3	0.4	0.3	0.4	0.5	
ヘルパンギーナ	3	1				1		1	1			1	1	1	3	3	1		5	27	81	138	227	296	287	245	237	
(定点当たり)	0.1	0.0				0.0		0.0	0.0			0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0		0.1	0.7	2.2	3.7	6.1	8.0	7.8	6.6	6.4	
流行性耳下腺炎	3		1	1	2	1	2		2	3	1	1	4					1	1	2	2		1	2	1	11	6	3
(定点当たり)	0.1		0.0	0.0	0.1	0.0	0.1		0.1	0.1	0.0	0.0	0.1					0.0	0.0	0.1	0.1		0.0	0.1	0.0	0.3	0.2	0.1
疾患 \ 週	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	合計		
インフルエンザ	327	341	407	317	179	137	102	185	296	736	858	844	1018	1117	2447	3139	1868	1004	1061	932	1024	1322	1095	992	964	30,850		
(定点当たり)	5.4	5.6	6.7	5.2	2.9	2.2	1.7	3.0	4.9	12.1	14.1	13.8	16.7	18.6	40.1	51.5	30.6	16.5	17.4	15.3	16.8	21.7	18.0	16.3	16.1	506.4		
新型コロナウイルス感染症	958	1220	1288	1200	924	1017	1035	1072	1177	1001	643	508	289	236	219	242	150	103	125	142	189	279	347	354	340	17,392		
(定点当たり)	15.7	20.0	21.1	19.7	15.1	16.7	17.0	17.6	19.3	16.4	10.5	8.3	4.7	3.9	3.6	4.0	2.5	1.7	2.0	2.3	3.1	4.6	5.7	5.8	5.7	285.3		
RSウイルス感染症	236	208	158	97	61	56	34	27	14	22	8	2	3	1	1	2						3	1	1		2,651		
(定点当たり)	6.4	5.6	4.3	2.6	1.6	1.5	0.9	0.7	0.4	0.6	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1						0.1	0.0	0.0		71.7		
咽頭結膜熱	13	16	15	24	29	33	30	77	92	84	81	97	76	76	66	79	80	99	116	148	157	112	151	147	158	2,375		
(定点当たり)	0.4	0.4	0.4	0.6	0.8	0.9	0.8	2.1	2.5	2.3	2.2	2.6	2.1	2.1	1.8	2.1	2.2	2.7	3.1	4.0	4.2	3.0	4.1	4.0	4.3	64.3		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	33	32	27	55	25	25	33	32	48	62	82	97	70	117	119	133	141	151	210	201	277	255	237	194	3,415		
(定点当たり)	1.1	0.9	0.9	0.7	1.5	0.7	0.7	0.9	0.9	1.3	1.7	2.2	2.6	1.9	3.2	3.2	3.6	3.8	4.1	5.7	5.4	7.5	6.9	6.4	5.2	92.4		
感染性胃腸炎	217	168	200	160	148	108	103	148	150	151	141	170	131	111	91	155	141	137	179	198	227	267	344	331	364	13,237		
(定点当たり)	5.9	4.5	5.4	4.3	4.0	2.9	2.8	4.0	4.1	4.1	3.8	4.6	3.5	3.1	2.5	4.2	3.8	3.7	4.8	5.4	6.1	7.2	9.3	8.9	9.8	358.0		
水痘	2	1	6	3	1	2	1	6	1	2	4	4	1		3	1	1	3	1	7	9	8	3	7	6	146		
(定点当たり)	0.1	0.0	0.2	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0		0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	3.9		
手足口病	19	22	14	16	16	18	12	16	23	30	36	44	34	25	23	24	28	18	48	47	26	43	48	47	36	813		
(定点当たり)	0.5	0.6	0.4	0.4	0.4	0.5	0.3	0.4	0.6	0.8	1.0	1.2	0.9	0.7	0.6	0.6	0.8	0.5	1.3	1.3	0.7	1.2	1.3	1.3	1.0	22.0		
伝染性紅斑	1			1				1										2				1		2		11		
(定点当たり)	0.0			0.0				0.0										0.1				0.0		0.1		0.3		
突発性発疹	23	20	15	11	19	10	20	20	13	10	6	13	13	12	12	12	10	12	12	11	13	5	8	9	15	756		
(定点当たり)	0.6	0.5	0.4	0.3	0.5	0.3	0.5	0.5	0.4	0.3	0.2	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.1	0.2	0.2	0.4	20.5		
ヘルパンギーナ	255	123	93	45	42	22	25	33	30	24	24	27	32	18	15	18	8	6	10	9	4	3	5	12	7	2,450		
(定点当たり)	6.9	3.3	2.5	1.2	1.1	0.6	0.7	0.9	0.8	0.6	0.6	0.7	0.9	0.5	0.4	0.5	0.2	0.2	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	66.2		
流行性耳下腺炎	1	7	2	4	2	3	2					4	1	1	2	2	2	3	4				2	2		95		
(定点当たり)	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1					0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1		2.6		

表5 定点把握五類感染症 週別患者報告数(続き)

疾患\週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
急性出血性結膜炎 (定点当たり)																											
流行性角結膜炎 (定点当たり)	2	3	2	1	4	5	6	1	3	4	3		2	8	6	7	3	3	14	6	12	6	5	9	7	5	7
ロタウイルス胃腸炎 (定点当たり)	0.3	0.4	0.3	0.1	0.5	0.6	0.8	0.1	0.4	0.5	0.4		0.3	1.0	0.8	0.9	0.4	0.4	1.8	0.8	1.5	0.8	0.6	1.1	0.9	0.6	0.9
細菌性髄膜炎 (定点当たり)																							1		1		
無菌性髄膜炎(真菌性を含む) (定点当たり)																							0.2		0.2		
マイコプラズマ肺炎 (定点当たり)			1	1																							
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)			0.2	0.2																							

疾患\週	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	合計
急性出血性結膜炎 (定点当たり)													1						1							2
流行性角結膜炎 (定点当たり)	18	14	11	13	8	8	27	13	13	17	13	17	19	18	21	17	12	23	12	13	9	15	20	27	21	533
ロタウイルス胃腸炎 (定点当たり)	2.3	1.8	1.4	1.6	1.0	1.0	3.4	1.6	1.6	2.1	1.6	2.1	2.4	2.3	2.6	2.1	1.5	2.9	1.5	1.6	1.1	1.9	2.5	3.4	2.6	66.6
細菌性髄膜炎 (定点当たり)			1																							3
無菌性髄膜炎(真菌性を含む) (定点当たり)			0.2																							0.5
マイコプラズマ肺炎 (定点当たり)																								1		1
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)				1						1					1								0.2			0.2
マイコプラズマ肺炎 (定点当たり)				0.2						0.2					0.2								0.2			0.7
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)															1		3									6
クラミジア肺炎(オウム病を除く) (定点当たり)															0.2		0.5									1.0

表6 定点把握五類感染症 月別患者報告数

疾患\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
性器クラミジア感染症 (定点当たり)	17	18	31	28	37	28	25	18	27	29	23	23	304
性器ヘルペスウイルス感染症 (定点当たり)	1.5	1.6	2.8	2.5	3.4	2.5	2.3	1.6	2.5	2.6	2.1	2.1	27.6
尖圭コンジローマ (定点当たり)	9	9	8	10	16	12	7	11	10	12	12	9	125
淋菌感染症 (定点当たり)	0.8	0.8	0.7	0.9	1.5	1.1	0.6	1.0	0.9	1.1	1.1	0.8	11.4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (定点当たり)	6	8	12	7	10	11	9	8	4	6	8	5	94
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (定点当たり)	0.5	0.7	1.1	0.6	0.9	1.0	0.8	0.7	0.4	0.5	0.7	0.5	8.4
薬剤耐性緑膿菌感染症 (定点当たり)	12	8	6	4	10	9	4	7	8	11	14	9	102
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (定点当たり)	1.1	0.7	0.545	0.4	0.9	0.8	0.4	0.6	0.7	1.0	1.3	0.8	9.3
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (定点当たり)	11	13	7	6	8	11	13	7	7	7	8	10	108
薬剤耐性緑膿菌感染症 (定点当たり)	1.8	2.2	1.2	1.0	1.3	1.8	2.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.7	18.0
薬剤耐性緑膿菌感染症 (定点当たり)													
薬剤耐性緑膿菌感染症 (定点当たり)													

(3) 結核

〔「結核登録者情報システム」における集計内容を示す。〕

結核患者発生状況(新登録患者)を表7に示した。

令和5年の結核新登録患者数は86人で、前年の98人から12人減少した。罹患率(人口10万対率)は6.7となり、前年の7.5から0.8減少し、結核低まん延の指標とされる「罹患率10.0」を5年連続して下回った。新登録患者のうち、排菌により感染拡大の危険が高い喀痰塗沫陽性肺結核患者数は32人で、前年の46人から14人減少し、罹患率は2.5となり、前年の3.5から1.0減少した。新登録肺結核患者に占める喀痰塗沫陽性患者の割合は54.2%

で、前年の63.0%から減少した。年齢階級別の罹患率を前年と比較すると、10歳代、50歳代では横ばい、20歳代、30歳代では増加、その他の年齢層では減少した。保健所別の罹患率を比較すると、高い順に宇和島保健所12.4(前年12.1)、八幡浜保健所10.5(前年12.7)、西条保健所8.9(前年9.7)、今治保健所7.3(前年7.2)、松山市保健所5.0(前年5.1)、中予保健所3.2(前年2.4)、四国中央保健所2.5(前年11.2)であり、今治保健所、松山市保健所、宇和島保健所では横ばい、中予保健所では増加、その他の保健所では減少した。

表7 結核患者発生状況(新登録患者)

		活動性結核					潜在性結核感染症 (別掲)
		総数	肺結核活動性			肺外結核活動性	
			喀痰塗沫陽性	その他の結核菌陽性	菌陰性・その他		
保 健 所 別	四国中央	2	1			1	5
	西条	19	10	4	2	3	2
	今治	11	4	5		2	5
	松山市	25	9	9	1	6	6
	中予	4	2			2	2
	八幡浜 宇和島	13 12	5 1	2 3		6 7	4 2
愛媛県合計		86	32	23	4	27	26
年 齢 別	0-4						2
	5-9						
	10-14						
	15-19	1				1	1
	20-29	8		4	2	2	2
	30-39	4		4			1
	40-49	1				1	3
	50-59	3	1			2	4
	60-69	6	1	1		4	4
	70-79	21	7	7		7	4
80-89	28	15	6	2	5	4	
90-	14	8	1		5	1	

## 2 細菌検査状況

感染症の病原体に関する情報を収集するため、愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領に基づき、病原体検査を実施した。

### (1) 全数把握対象感染症

#### ア 赤痢

県内で細菌性赤痢患者の届出があった場合には、分離された菌株について、当所で確認検査を実施するとともに、国立感染症研究所に菌株を送付している。国立感染症研究所では、Multilocus variable-number tandem-repeat analysis (MLVA) 法による型別を実施し、当所では血清型別試験、細胞侵入性関連遺伝子 (*invE*, *ipaH*) の遺伝子検査を実施している。県内で届出のあった細菌性赤痢患者 1 名は、フィリピンからの留学生であり、腹痛と血便のため医療機関を受診し赤痢菌が分離された。当該菌株は、フレキシネル variantY で、*invE*, *ipaH* 遺伝子の保有が確認された(表 8)。

#### イ 腸管出血性大腸菌感染症

県内で腸管出血性大腸菌 (EHEC) 感染症患者及び無症状病原体保有者の届出があった場合には、分離された菌株について当所で確認検査を実施するとともに、国立感染症研究所に菌株を送付している、国立感染症研究所

では、EHEC O26, O111, O157 については Multilocus variable-number tandem repeat analysis (MLVA) 法による型別を実施し、その他の EHEC についてはパルスフィールドゲル電気泳動 (PFGE) 法による型別を実施して、全国規模の同時多発的な集団発生“diffuse outbreak (散在的集団発生)”を監視している、当所では、分離株の生化学的性状、O 抗原及び H 抗原の血清型別、ベロ毒素 (VT) の型別、薬剤感受性試験、PFGE 法に加え、EHEC O157, O26, O111 については MLVA 法を実施し県内規模の diffuse outbreak を監視している、薬剤感受性試験は、臨床・検査標準協会 (CLSI) の抗菌薬ディスク感受性試験実施基準等に基づき、アンピシリン (ABPC)、セフトキサシム (CTX)、ゲンタマイシン (GM)、カナマイシン (KM)、イミペネム (IPM)、ノルフロキサシン (NFLX)、シプロフロキサシン (CPFX)、ナリジクス酸 (NA)、ST 合剤 (SXT)、メロペネム (MEPM)、セフトジジム (CAZ)、ホスホマイシン (FOM)、クロラムフェニコール (CP)、セフォキシチン (CFX)、アミカシン (AMK)、ストレプトマイシン (SM)、テトラサイクリン (TC)、コリスチン (CL) の 18 薬剤に対する耐性の有無を判定している、県内で届出のあった EHEC 患者及び無症状病原体保有者 16 名から分離された EHEC について解析を行った(表 9)。分離株の血清型別及び型

表 8 愛媛県内における細菌性赤痢患者からの分離株 (2023 年)

診断月日	保健所名	感染地域	菌型(血清型)	<i>invE</i>	<i>ipaH</i>
11/27	西条	不明	<i>Shigella flexneri</i> variantY	+	+

表 9 愛媛県内における腸管出血性大腸菌感染症患者からの分離株 (2023 年)

事例番号	診断月日	保健所名	疫学情報	患者感染者数 (無症状者再掲)	血清型		VT型別	病原因子	耐性薬剤	MLVA型 <sup>2)</sup>	MLVA <sup>3)</sup> コンプレックス	株数
					O	H <sup>1)</sup>						
1	2023/4/3~4/8	今治	家庭内	2 (1)	26	11	1	<i>eae</i> , <i>hlyA</i>		20m2121	23c201	2
2	4/25	松山市	散発	1 (1)	181	49	2	<i>hlyA</i>				1
3	4/27	松山市	散発	1 (1)	156	25	1	<i>eae</i> , <i>hlyA</i>				1
4	2023/6/30~7/7	八幡浜 松山市	家庭内	2 (1)	157	7	2	<i>eae</i> , <i>hlyA</i>		23m0264		2
5	2023/7/26~7/31	中予 松山市	家庭内	2 (2)	132	H-/Hg18	2		CP,SM,TC			2
6	8/1	宇和島	散発	1	157	7	1, 2	<i>eae</i> , <i>hlyA</i>	SM,TC	23m0103	23c047	1
7	8/26	西条	散発	1	157	7	2	<i>eae</i> , <i>hlyA</i>	ST,CP,SM,TC	23m0212	23c026	1
8	8/29	松山市	散発	1 (1)	157	7	2	<i>eae</i> , <i>hlyA</i>		23m0497		1
9	8/30	西条	散発	1	157	7	1, 2	<i>stx2c</i> , <i>stx2d</i> , <i>eae</i> , <i>hlyA</i>		23m0496	23c064	1
10	9/25	松山市	散発	1	157	7	2	<i>eae</i>	ST,CP,SM,TC	23m0498		1
11	10/27	松山市	散発	1	103	2	1, 2	<i>eae</i> , <i>hlyA</i>	ST	23m4012		1
12	11/20	八幡浜	散発	1 (1)	91	H-/Hg14	1			23m8021		1
13	11/27	松山市	散発	1 (1)	15	12	1		ST,TC			1
計				16 (9)								16

1) Hg : H-genotyping PCR法による判別。国立感染症研究所で実施。

2) MLVA : ゲノム上に散在するリピート配列のリピート数の違いを基に菌株を型別する方法。国立感染症研究所によって付与されたMLVA型。"23mXXXX" [23 : 2023 (分離年)、m : MLVA、XXXX : 番号]と表記。

3) MLVA コンプレックス : SLV (Single locus variant : 一遺伝子座でリピート数が異なる、PFGEにおける2~3バンド違いと同様の意味。)の関係にあるMLVA型。"23cYYY" [23 : 2023 (分離年)、c : complex、YYY : 番号]と表記。

別を併せた分類では、O157:H7 VT2 5株、O26:H11 VT1、O132:H- VT2、O157:H7 VT1&2 が各2株、O15:H12 VT1、O91:H- VT1、O103:H2 VT1&2、O156:H25 VT1、O181:H49 VT2 が各1株であった。

事例1(患者2名、O26:H11 VT1)は、岡山県、島根県及び広島県の分離株と MLVA コンプレックス型(23c201)が一致したが疫学的な関連は見いだせなかった。

事例6(患者1名、O157:H7 VT1&2)は、東京都、埼玉県、富山県、滋賀県、福井県の分離株と MLVA コンプレックス型(23c047)が一致したが疫学的な関連は見いだせなかった。

事例7(患者1名、O157:H7 VT1)は、香川県及び岡山県の分離株と MLVA コンプレックス型(23c064)が一致したが疫学的な関連は見いだせなかった。

事例8(患者1名、O157:H7 VT1&2)は、川崎市、徳島県、横浜市、明石市、兵庫県、福山市、東京都、神戸市、大阪府、長崎県埼玉県の分離株と MLVA コンプレックス型(23c026)が一致したが疫学的な関連は見いだせなかった。

事例10(患者1名、O157:H7 VT2)は、埼玉県の分離株と MLVA 型(23m0498)が一致したが疫学的な関連は見いだせなかった。

事例11(患者1名、O103:H2 VT1&2)は、埼玉県及び川崎市の分離株と MLVA 型(23m4012)が一致したが疫学的な関連は見いだせなかった。

病原因子関連遺伝子は、*eae* 及び *hlyA* 遺伝子を共に保有していたのは10株(8事例)、*eae* 遺伝子のみ保有が1株(1事例)、*hlyA* 遺伝子のみ保有が1株(1事例)、*eae* 及び *hlyA* 遺伝子を共に保有していなかったのは4株(3事例)であった。

薬剤感受性試験の結果、ST、CP、SM、TCの4剤耐性が2株(2事例)、2株、CP、SM、TCの3剤耐性が1株(1事例)、SM、TC及びST、TCの2剤耐性が2株(2事例)、STの1剤耐性が1株(1事例)であった(表9)。

#### イ レジオネラ症

県内で届出のあったレジオネラ症患者から分離されたレジオネラ属菌1株について解析を行った(表10)。病原体は *Legionella pneumophila*、血清群1(Serogroup:SG1)であった。SBT解析(Sequence-Based Typing)の結果、

当該株の Sequence Type は ST260 であった。

#### ウ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

県内でカルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)感染症の届出があった場合は、平成29年3月28日付け健感発0328第4号厚生労働省健康局結核感染症課長通知「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症等に係る試験検査の実施について」に基づき、当該菌株についてPCR法による主要なカルバペネマーゼ遺伝子(IMP型、NDM型、VIM型、KPC型、GES型、OXA-48型)の検出及び阻害剤を用いたβ-ラクタマーゼ産生性の確認等、詳細な分子疫学的解析を実施している。

県内で届出のあったCRE感染症患者27名の患者由来株が搬入された。菌種の内訳は、*Klebsiella aerogenes* が14株、*Enterobacter cloacae* が6株、*Klebsiella pneumoniae* が2株、*Enterobacter cloacae complex*、*Enterobacter hormaechei*、*Enterobacter sp.*、*Enterobacter spp.*、*Serratia marcescens* が各1株であった。PCR法による主要なカルバペネマーゼ遺伝子検出の結果、27株中1株(*Klebsiella pneumoniae*)がカルバペネマーゼ産生株で、カルバペネマーゼ遺伝子型はGES-24型であった(表11)。

#### エ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

県内で劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出があった場合には、当所で当該菌株についてLancefieldの分類により群別を行い、A群溶血性レンサ球菌についてはT血清型別を実施している。

県内で届出のあった劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者由来11株が搬入された。Lancefield分類による群別の結果、G群溶血性レンサ球菌5株、A群溶血性レンサ球菌及びB群溶血性レンサ球菌が各3株であった(表12)。A群溶血性レンサ球菌3株の菌種は、*Streptococcus pyogenes* で、T血清型別はTB3264が2株、TBが1株であった。

#### オ バンコマイシン耐性腸球菌感染症

県内でバンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症の届出があった場合は、平成29年3月28日付け健感発0328第4号厚生労働省健康局結核感染症課長通知「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症等に係る試験検査の実施について」に基づき、当該菌株について菌種同定、耐性遺伝子検査等、詳細な分子疫学的解析を実施している。

表10 愛媛県におけるレジオネラ症患者からの分離株(2023年)

事例番号	診断月日	保健所名	疫学情報	病原体	血清群	ST <sup>1)</sup>
1	11/22	西条	散发	<i>Legionella pneumophila</i>	1	624

1) SBT解析(Sequence-Based Typing)によるSequence type.

県内で届出のあった VRE 感染症患者 2 名の患者由来株が搬入された。菌種は *Enterococcus faecium* で、耐性遺伝子は *vanA* であった(表 13)。

表 11 愛媛県におけるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症患者からの分離株(2023 年)

菌株番号	診断月日	保健所	検出検体	検出菌種 <sup>1)</sup>	PCR法			表現型検査			
					カルバペネマーゼ遺伝子 <sup>1)</sup>	ESBL <sup>2)</sup>	AmpC <sup>3)</sup>	クラブラン酸試験	SMA <sup>4)</sup>	ポロン酸	クロキサシン
1	1/25	宇和島	尿	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
2	2/15	松山市	血液	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
3	5/2	宇和島	喀痰	<i>Enterobacter cloacae</i>	-	-	EBC	-	-	-	-
4	5/9	宇和島	尿	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
5	4/26	松山市	創部壊死組織	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	-	SHV	-	-	-	-	-
6	5/29	松山市	胆汁	<i>Enterobacter hormaechei</i>	-	-	-	-	-	-	-
7	6/16	宇和島	血液	<i>Enterobacter cloacae</i> complex	-	-	EBC	-	-	-	-
8	6/22	宇和島	膿瘍	<i>Enterobacter cloacae</i>	-	-	-	-	-	-	-
9	6/29	宇和島	尿	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
10	7/14	松山市	尿	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
11	7/17	中予	穿刺液	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	GES-24	-	-	-	+	+	-
12	7/24	西条	喀痰	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
13	8/1	宇和島	尿	<i>Enterobacter spp.</i>	-	-	-	-	-	-	-
14	8/22	西条	胆汁	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
15	8/29	西条	膿	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
16	9/8	宇和島	喀痰	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
17	9/14	宇和島	尿	<i>Enterobacter sp.</i>	-	-	-	-	-	-	-
18	9/21	松山市	尿	<i>Enterobacter cloacae</i>	-	-	-	-	-	-	-
19	9/22	今治	尿	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
20	10/10	松山市	血液	<i>Enterobacter cloacae</i>	-	-	-	-	-	-	-
21	11/6	松山市	血液	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
22	11/2	宇和島	膿瘍	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
23	11/16	松山市	血液	<i>Serratia marcescens</i>	-	-	-	-	-	-	-
24	11/29	宇和島	尿	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
25	12/22	宇和島	尿	<i>Enterobacter cloacae</i>	-	-	-	-	-	-	-
26	12/25	松山市	穿刺液	<i>Klebsiella aerogenes</i>	-	-	-	-	-	-	-
27	12/22	松山市	血液	<i>Enterobacter cloacae</i>	-	-	EBC	-	-	+	-

- 1) カルバペネマーゼ遺伝子: IMP、VIM、NDM、KPC、OXA-48、GES
- 2) 基質拡張型β-ラクタマーゼ遺伝子: TEM型、SHV型、CTX-M-1 group、CTX-M-2 group、CTX-M-9 group
- 3) AmpC β-ラクタマーゼ遺伝子: MOX、CIT、DHA、EBC、FOX、ACC
- 4) SMA:メルカプト酢酸ナトリウム試験

表 12 愛媛県における劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者からの分離株(2023 年)

診断月日	保健所名	菌種	Lancefield群別	
			血清型	T血清型別
2/20	松山市	<i>Streptococcus pyogenes</i>	A群	TB3264
3/9	松山市	<i>Streptococcus agalactiae</i>	B群	—
4/21	松山市	<i>Streptococcus G</i>	G群	—
4/26	松山市	<i>Streptococcus agalactiae</i>	B群	—
5/17	松山市	<i>Streptococcus agalactiae</i>	B群	—
5/24	今治	<i>Streptococcus pyogenes</i>	A群	TB3264
5/31	松山市	<i>Streptococcus pyogenes</i>	A群	TB23
7/19	松山市	<i>Streptococcus G</i>	G群	—
9/19	宇和島	<i>Streptococcus G</i>	G群	—
10/31	中予	<i>Streptococcus G</i>	G群	—
12/8	宇和島	<i>Streptococcus G</i>	G群	—

表 13 愛媛県におけるバンコマイシン耐性腸球菌感染症患者からの分離株(2023 年)

菌株番号	診断月日	保健所	検出検体	検出菌種	耐性遺伝子
1	1/24	今治	喀痰	<i>Enterococcus faecium</i>	<i>vanA</i>
2	3/3	今治	喀痰	<i>Enterococcus faecium</i>	<i>vanA</i>

(2) 定点把握対象感染症

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱に定められた指定届出機関のうち、病原体定点等の医療機関において、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎等患者から採取された検体について細菌学的検査を実施している。

ア A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

咽頭ぬぐい液を羊血液寒天培地で分離を行い、β 溶血を認めた集落について同定検査及び Lancefield の分類による群別試験を実施した。A 群溶血性レンサ球菌と同定された菌株については、T 血清型別を実施した。

病原体定点において A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者から採取された咽頭ぬぐい液 2 例中 2 例(100%)から A 群溶血性レンサ球菌が分離された。T 血清型別は、TB3264 及び T 型別不明が各 1 株であった(表 14)。

イ 感染性胃腸炎

検査対象病原体は下痢原性大腸菌、サルモネラ属菌及びカンピロバクター属菌とし、通常 3 種類の選択分離培

地上に発育した集落を釣菌し、生化学的性状試験及び血清学的試験等により同定している。下痢原性大腸菌は 11 種類(*stx1, stx2, stx2f, estA1, estA2, elt, invE, aggR, eae, astA, afaD*)の病原因子関連遺伝子の有無を PCR 法で確認し、腸管出血性大腸菌(EHEC)、腸管侵入性大腸菌(EIEC)、腸管毒素原性大腸菌(ETEC)、腸管病原性大腸菌(EPEC)及び腸管凝集付着性大腸菌(EAggEC)、その他の大腸菌(EASTIEC, DAEC)に分類し、市販免疫血清で血清型別を実施している。カンピロバクター属菌は、*Campylobacter spp., C. jejuni, C. coli, C. lari, C. upsaliensis, C. fetus* を対象とした Multiplex-PCR を実施し、*C. jejuni* については Penner の耐熱性抗原による血清型別試験及び遺伝子検査を実施している。

感染性胃腸炎患者糞便検体 4 例について病原菌検索を行なった結果、サルモネラ属菌及びカンピロバクター属菌各 1 株が分離された。分離されたカンピロバクター属菌は全て *C. jejuni* で、Penner 型別は B 群が 2 株、I 群が 1 株であった(表 14)。

表 14 愛媛県における定点把握対象感染症患者からの病原細菌検出状況(2023 年)

疾患名	検出病原菌	血清型別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
A 群 溶血性 咽頭炎 細菌	<i>S. pyogenes</i> (A群)	TB3264					1								1
		UT					1								1
		計					2								2
		検査数	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
感 染 性 胃 腸 炎	サルモネラ属菌								1						1
		カンピロバクター属菌					1								1
		計					1		1						2
		検査数	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	4

### 3 ウイルス検査状況

#### (1) 全数把握対象感染症

県保健所及び松山市から依頼を受けた検体について遺伝子増幅法によるウイルス検査を実施した。

##### ア E型肝炎

医療機関から保健所に報告のあったE型肝炎1症例について、遺伝子増幅検査によるE型肝炎確認検査を実施した結果、ウイルスは検出されなかった。

##### イ 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

疑い患者17例について検査した結果、3例からSFTSウイルスが検出された(検出率17.6%)。

##### ウ 麻しん

医療機関から保健所に報告のあった麻しん2症例について、遺伝子増幅検査による麻しん確認検査を実施した結果、1例から麻しんウイルス(ワクチン株)が検出された。

##### エ 風しん

医療機関から保健所に報告のあった風しん1症例について、遺伝子増幅検査による風しん確認検査を実施した結果、陰性であった。

##### オ 急性弛緩性麻痺(AFP)

医療機関から保健所に報告のあったAFP1症例について、ウイルス分離検査及び遺伝子増幅検査を実施した結果、ウイルスは検出されなかった。

##### カ 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)感染症

五類感染症へ移行した2023年5月8日までの間、71例(鼻咽頭ぬぐい液等)について遺伝子増幅検査を実施した結果、70例から新型コロナウイルスが検出された。

#### (2) 定点把握対象感染症

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱に定められた指定届出機関のうち、病原体定点等の医療機関において、ウイルス検査対象疾患、呼吸器感染症及び発疹症等患者から採取された検体についてウイルス学的検査を実施した。なお、呼吸器感染症等患者検体からのウイルス患者検体からのウイルス検索には、電子顕微鏡法、PCR法、リアルタイムPCR法及びイムノクロマト(IC)法を用いた。呼吸器感染症等患者検体188例から検出されたウイルスは175例(検出率93.1%)、感染性胃腸炎患者検体8例から検出されたウイルスは6例(検出率75.0%)であった。分離にはFL、RD-18s、Vero細胞を常用し、インフルエンザ流行期にはMDCK細胞を併用した。また必要に応じてPCR法、リアルタイムPCR法を実施した。感染性胃腸炎、呼吸器感染症等患者検体からの月別ウイルス検出状況を表15に、感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況を表16に示した。

呼吸器感染症等患者検体:インフルエンザウイルスは、すべての月のインフルエンザ患者検体から145件検出された。内訳は、AH1pdm09が20件、AH3が123件、B(Victoria系統)が2件であり、B(山形系統)は検出されなかった。AH1pdm09は6月及び8月から12月に検出されていた。またAH3は年間を通して検出されていた。B(Victoria系統)は11月及び12月に検出されていた。

図1に2022/2023シーズンの週毎のインフルエンザ患者報告数とインフルエンザウイルスの検出状況を示した。例年は春季を迎えるとともに患者報告数が減少し、流行は一旦終息するが、本シーズンは流行が終息することなく続き、2023/2024シーズンに移行した。ウイルス検出状況も患者報告数と同様に、春季以降AH3の検出が続いていた。

手足口病患者検体からは、コクサッキーウイルス(CV)-A16が6件、ライノウイルスが4件、CV-A6、エンテロウイルス(EV)-A71がそれぞれ1件検出されており、2023年の手足口病の主病因は、CV-A16であったと考えられた。

ヘルパンギーナからCV-A2が7件、ライノウイルスが2件、CV-A4、CV-A10、CV-B5がそれぞれ1件検出されており、2023年のヘルパンギーナの主病因はCV-A2であったと考えられた。

また、咽頭結膜炎患者検体からは、アデノウイルス1型(Ad1)が1件、アデノウイルス3型(Ad3)が3件検出された。

感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況は、ノロウイルスGIIが2例(検出率25.0%)、サポウイルスが4例(50.0%)であった。ノロウイルスGIは検出されなかった。

表 15 呼吸器感染症等患者検体からの月別ウイルス検出状況

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
インフルエンザ	AH1pdm09					1		2	1	6	4	6	20	
	AH3	13	7	11	6	4	4	13	5	9	18	20	13	123
	B(Victoria)											1	1	2
コクサッキー	CV-A2				2		4	1						7
	CV-A4								1					1
	CV-A6									1				1
	CV-A10									1				1
	CV-A16									1	2	1	2	6
	CV-B5							1						1
	エンテロウイルス							1						1
ライノ						1	1	1	1		1		6	
アデノ	Ad1												1	1
	Ad3								1			2		3
パラインフルエンザ										1			1	
新型コロナ										1			1	
合計	13	7	11	8	5	11	16	10	16	26	29	23	175	
検体数	19	8	12	8	6	13	16	9	15	26	31	25	188	

※同一検体への重複感染を含む

表 16 感染性胃腸炎患者からのウイルス検出状況

ウイルス名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
NoV GII	1	1											2
SaV		1									2	1	4
合計	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	6
検体数	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	8

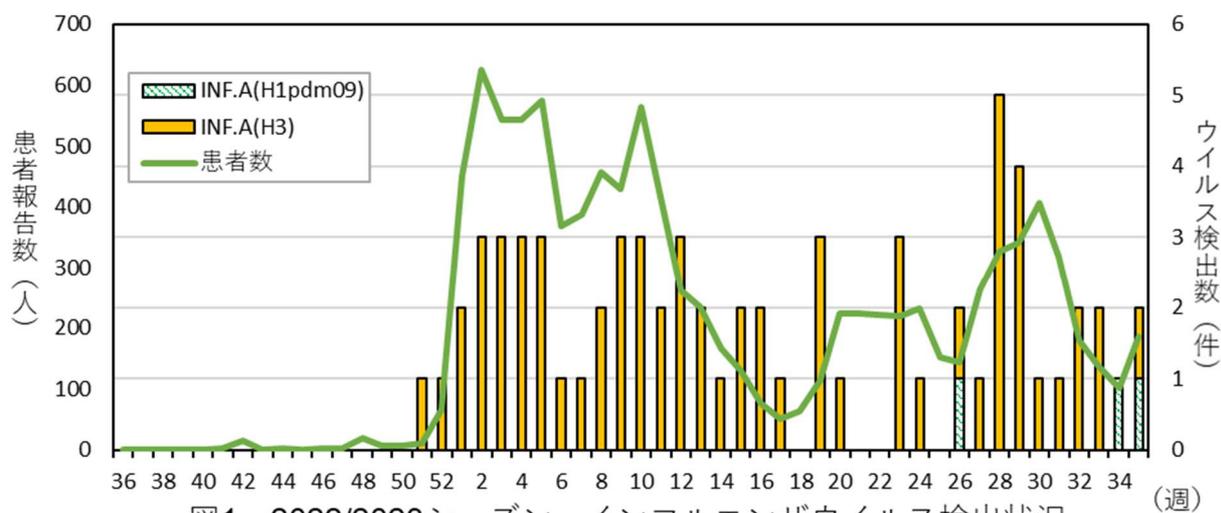


図1 2022/2023シーズン インフルエンザウイルス検出状況 (週)